

テレカコレクション

〈第26回〉 清涼飲料水編

健



エアコンや冷蔵庫が普及していなかった昭和30年代の子供時代。夏の涼を取るものといえばラムネ・サイダー、かき氷、アイスクリーム、西瓜などの果物といったところが定番だった。



西瓜など果物を冷やす手段も井戸に浸けるか水道の水を流し続けて冷やすのが普通だったと記憶している。今回のテーマである清涼飲料水の定義であるが当時の感覚としては炭酸系飲料かジュース類を指す。現代は水や烏龍茶、日本茶、缶コーヒー、スポーツドリンクやオロナミンCの類も清涼飲料水に分類されている。これらが大々的に販売・普及するのは昭和50年代も半ば頃であったのと水やお茶にお金を出すとこの感覚は無い時代に育ったのでこれらを清涼飲料水というのは自分にはピンとこないのだが…。

子供の頃、冷えた飲み物とというのは基本的には冷蔵庫を持っている酒屋か菓子店で買うか、氷屋で買った氷で冷やすしかなく値段も高く子供の小遣い（1日10円）では簡単に飲めるものではなかった。デパートに行った時とか祭の日、おもてなし、病気の時とか特別の時ぐらいだった。当時は種類も少なく炭酸系は三ツ矢サイダー、キリンレモン、ジュ

ースはバヤリースぐらいだったと思う。変わっているのはプラッシーでどういうわけか米屋限定で販売されていて当時20円、本当に病気の時しか飲んだ記憶が無い。

コカ・コーラが日本に入ってきたのが昭和33年となっているが日本において完全自由化され一般店で買えるようになったのは昭和36年のことなので、みんなが飲むようになるのは大分後になってからだと思う。映画「ALWAYS 三丁目の夕日」の中でコカ・コーラを売っているシーンがでてくるが設定が昭和33年なので多分こういうことは無かったはず。中学生になってもコカ・コーラを飲んだ記憶はない。仲間と寄り道をする店（駄菓子とおでん屋）にはちびっこコーラなる本物の半分ぐらいのまがい品があり王冠の裏にお金の当たりがありうまくいけば只でもう一本飲むことができた。



中学生の頃の昼食代が50円（学校の購買でパンが1つ10円～20円）。食費を浮かせて小遣いにしていたが飲み物で買う基準になるのが量。サイダーはビール瓶（三ツ矢）の形で400ml/40円、コーラは190ml/30円？ぐらいなので割高感があった。



懐かしいのが「渡辺の粉末ジュースの素」だ。昭和30年代の終わりごろ冷蔵庫の普及によって家庭でも簡単に氷が作れるようになった。飲み物もガラスのポットに入れた麦茶

がおもてなしの主流となりカルピスなんぞ出てきた日にゃ感激ものだったが粉末ジュースの発売により一変した。原価は一杯あたり5円ぐらいであったが人の家を



訪ねたときぶっかき氷に粉末ジュースをまぶした水でも高級感があった。最初はオレンジ味だけだったが炭酸味の物まで出来てこれは水に溶かすと泡を立ててサイダーに変わった。この粉末は舐めても口の中で泡を立てその刺激がたまらなかったがしまいにはお汁粉の素まで出てCMにまでなった。

粉末ジュースはその安さから随分飲んだがある日突然、姿を消してしまう。合成甘味料の天然チクロ問題で使用禁止になったためだ。但し、スポーツドリンクの「ゲータレード」などはボトルの他に粉末の形でも売られている。

ところで今年はコカ・コーラが販売されて120周年ということで記念キャンペーンが実施されている。ペットボトルや缶に昔の宣伝ポスターを印刷したり、コーラの瓶・搬送車・自動販売機など24種のフィギュアをおまけに付けているが種類が多いというのもコレクター泣かせだ。

コカ・コーラはその宣伝力と販売戦略のためか世界的レベルでコレクションの世界が存在している。コーラ商品、記念ボトル、ロゴ入り製品、ポスター、

ノベルティ・グッズ実際に使用していた自動販売機などの品々である。テレカでも一ジャンルを築いており特に外国人コレクターに人気がある。コーラ製品についているおま





けのフィギュアもコーラのボトルやロゴ入りのものは孫の代まで持っていればお宝になるかもしれない。以前講談社から「コカ・コーラ大研究」という本が出版され自分も現物を見ておおいにコレクション魂を触発された。この本はコカ・コーラの歴史、ノベルティ・グッズ、世界で販売しているコーラの種類が載っていた。これによれば当時最大の大きさは6 $\frac{1}{2}$ リットル瓶、日本では4 $\frac{1}{2}$ リットル瓶が最高とあった。これは親戚が海の家をやっていたので現物を見た事がある。飲み物のプレゼント企画の定番はグラスプレゼントで昔からウイスキーやビールでもおなじみだ。

サイダーではリボンちゃんのキャラクターが有名。コーラでは各国で販売しているコーラのロゴ入りグラスのプレゼントがあった。後年Jリーグキャラクターグラスのプレゼントもあり随分飲んだものだ。

元々炭酸系飲料が好きで風呂上りに1リットルぐらいは平気で飲んでいたのがコレクションをするには問題無かったがこれが後年、糖尿病の原因の1つとなった。それ以降は烏龍茶や水に切替え持ち直したもののカロリーが無いと思って水を取りすぎるのも心臓に負担をかけ良くなかったのかもしれない。4年前から心不全となり水分制限を受けている身ではままたらない。他のジュース類だと8種類ぐらいでキャンペーンをするのが普通。ペプシもそうだがスターウォーズシリーズのように種類が多すぎるのは閉口する。集めるものの身にもなってもらいたいものだがそれが販売戦略であるから仕方がないか。



それでも最近は何のフィギュアが付いているか外からわかるようになったからでした。以前は何の種類がはいつているかわからずシークレットとって秘密の種類が1種類入っているものがあったので全部揃えるまで一苦労した。

ところで今回のテーマについてはいつになく書く材料が多くとてもこのコラムでは書き切れない。ペプシとコーラの販売競争や缶コーヒー、水、烏龍茶、日本茶、乳飲料などについても触れたかったのだが入院中に帰宅許可を貰って書いていることもあり時間が無い。別のコラムで書いてみたいと思っている。

余談ではあるが飲み物を買うというのは特殊なことのようにコカ・コーラなどはチョコラBBなど語源が同種のものでありペプシも消化酵素のペプシンからきているようにその多くは健康飲料として愛飲されてきた実績がある。

オロナミンCなどははっきり医薬品として売り出そうとしたが炭酸入りの物は医薬品とし認可できなということと清涼飲料水となっている。カルピスもカルシウム入りのピス（醍醐味）ということでももとは整腸剤が売りだった。

ところでこのカルピス夏場だけでなく冬も飲んで貰おうと昭和59年に国鉄とジョイントして東京八重洲の中央通路を利用してホット・カルピスのキャンペーンを行っている。

斎藤由貴のホットカルピスのテレカも何種類か作られているが掲載のテレカはその内の一枚で当時は人気のあるテレカだった。

